

最終候補地は 近美豊科プール跡地周辺ゾーン

市は5月28日、議会全員協議会で市役所の本庁舎の最終建設候補地を発表しました。選定理由の概要と今後のスケジュールについてお知らせします。

総合的に判断

市は、市役所本庁舎の建設候補地を「豊科近代美術館」と「豊科プール跡地」周辺を併用したゾーンに絞り込みました。

この2つの敷地は、直線で約300mという近い距離にあり、既存の市有地を有効に活用できるため、事業費を抑えた必要最小限の本庁舎を建設することができます。最終選定にあたっては、利便性、地域振興、経済性、まちづくり、将来性の観点から、それぞれのメリット、デメリットを比較する中

で、市民の皆さまの意見を参考にしながら、総合的に判断しました（左下表参照）。

豊科近代美術館敷地

豊科近代美術館の敷地は、旧豊科町時代、文化ゾーンの位置づけの中で、美術館や教育文化会館、武道館、武蔵野の小径や思索の森などが整備され、現在も交流学习センターを建設しています。

これらの施設と市役所本庁舎が隣接することで、文化振興面での相乗効果が期待できます。

豊科プール跡地

豊科プール跡地は、昨年度をもってプールが閉場したことに伴い、現在は使用していません。

この場所を防災広場として整備することにより、非常時は防災拠点として、通常は公用車などの駐車場として活用することができます。

他の候補地について

●豊科総合支所周辺に建設する場合、豊科総合支所の機能を一時的に移転する必要がある、仮設庁舎の建設や移転費に多額の費用が生じます。また、公民館ホールを取り壊す場合は新たなホール建設に多額の費用が生じます。公民館ホールを残したうえで、総合支所の移転費が生じない2棟方式で庁舎を建設する方法も検討しましたが、機能面の課題があります。

●現在の本庁舎と県安曇野庁舎周辺は、敷地が狭く、十分な駐車場確保が難しいほか、県の庁舎を取り壊さなければ必要な規模を確保できません。市民の安心・安全を守る安曇野建設事務所に移転を求めることは現実的ではありません。

●東洋紡績株式会社様の敷地は、他の場所と比較して想定する事業費が高額となることに加え、JRD大糸線の西側に位置することから、既存市街地の活性化を進めるには不便な条件があります。これらを踏まえ、この3候補地は本庁舎建設場所として断念せざるを得ないと判断しました。

建設候補地の評価結果※1

評価項目		豊科近代美術館・豊科プール跡地周辺ゾーン
第一次評価	法規制等の基本的条件	I. 農振法関連の法規制 ○
		II. 都市計画法関連の法規制 ○
		III. 敷地の安全性 ○
		IV. 基本構想の候補地との整合 ○
第二次評価	利便性 地域振興	I. 人口の集積 人口重心※2から1.6km、都市計画中心※3から2.7km、総合支所中心※4から1.3km
		II. 交通の事情 豊科駅から700m、あづみん豊科乗合エリア内
		III. 支所機能統合の可能性 豊科総合支所との距離は600m
		IV. 周辺施設との相乗効果 官公署、病院、郵便局、銀行、商店街が近い
	経済性	V. 用地買収及び補償費等（本庁舎建設に必要な想定事業費※5） 約79億8,000万円（概算）うち、市の実質的な負担額は約31億9,000万円
		VI. 敷地周辺のインフラ整備状況 道路：歩行者等の交通弱者の安全確保のため、歩道設置等の対応が必要 上下水道：整備済
	まちづくり 将来性	VII. まちづくり関連の計画等との整合 用途地域※6の変更、都市計画道路※7の見直しが必要
		VIII. 周辺の環境への影響 一部、電波障害等の影響が予測される
		IX. 敷地面積及び駐車可能台数 敷地面積：34,300㎡程度 駐車台数：700台程度

※1 5カ所の建設候補地の評価結果については、市ホームページまたは本庁舎建設準備室の窓口でご覧いただけます。

※2 人口重心＝平成17年国勢調査による人口重心地はソニーイーエムシーエス株式会社の西側約300メートル付近

※3 都市計画中心＝JR柏矢町駅北付近

※4 5カ所の総合支所の中心＝ソニーイーエムシーエス株式会社様から北へ約200メートル付近（国道147号の東側）

※5 想定事業費＝庁舎建設費、外構工事費、備品購入費、移転費、基本設計費、実施設計費、工事監理費、その他候補地の事情により生ずる用地買収費、建物取り壊し費、補償費、仮設庁舎建設関連費等の合計

※6 用途地域＝用途の混在を防ぎ住み良いまちづくりを進めるために、住居、商業、工業など、市街地の土地利用の大枠を定めたもの

※7 都市計画道路＝都市の基盤的道路として、都市計画法に基づき計画決定された道路。その多くは昭和30年代に決定されています。

